

安全・安心な海水浴を願って 浪板海岸で海開き神事

先月17日、海開き神事が浪板海岸で開かれ、加藤町長や町観光協会、町漁業協同組合などの関係者約40人が、海水浴シーズン中の安全と好天を祈りました。

この日は、好天に恵まれ、海ではサーフィンや海水浴を楽しむ人たちも見られました。

なお、今年の海水浴場の開設期間は、8月16日(月)までとなっています。



浪板海岸での海開き神事



横断幕を先頭にパレードする安渡小の児童と関係者

社会を明るくする運動で 明るい町づくりを呼び掛ける

先月、町方地区・安渡地区・赤浜地区の3カ所(吉里吉里地区は雨のため中止)で第60回社会を明るくする運動のパレードが繰り広げられました。

安渡地区でのパレードは先月12日に実施され、安渡小学校の児童の演奏に続き、民生児童委員協議会、防犯協会、交通安全協会、PTA、更生保護女性の会、保護司会などの関係者が参加し、犯罪のない明るい町づくりを呼びかけながら地区内をパレードしました。

おじいちゃん、おばあちゃんと一緒に 七夕飾り作りで交流

先月2日、大槌保育園でお年寄りや園児らが、七夕飾りを作りました。飾り作りは、同園の地域交流事業の一環として開かれたもので、大槌町老人クラブ連合会から会員23人が集まり、園児たちに七夕飾りの作り方を指導しました。

園児たちはおじいちゃん、おばあちゃんたちの手ほどきで七夕飾りに挑戦。笑顔で楽しんでいました。

また、今月2日には、園児たちと大槌町老人クラブ連合会の皆さんが、完成した七夕飾りを、JR大槌駅構内に設置した竹に飾り付けしました。



七夕飾りの作り方を教わる園児



清掃活動に汗を流す参加者

大槌の漁港をきれいにする会の漁港清掃 町内5カ所で実施

先月6日、大槌の漁港をきれいにする会が、安渡・赤浜・白石・吉里吉里・浪板の5カ所の漁港で清掃活動を実施しました。活動には、地元漁業関係者や水産加工業者、地区住民の皆さんなど約340人が参加。草刈りや空き缶などのごみ拾い、粗大ごみの回収などに汗を流していました。

収集したごみは全体で910kgで、昨年と比べて90%の減少となりました。

子どもたちは海の生き物に大興奮 東大海洋研一般公開

先月19日の海の日に合わせて、東京大学大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センターの一般公開が行われました。普段見ることのできない研究施設を見学できる貴重な機会であることから、会場には、町内外から家族連れなど1,100人を超える人が来場し、センターの施設を見学しました。

特に、子どもたちに人気だったのは、カレイやドンドンコなどを直接触ることのできるタッチプール。子どもたちは実際に手に取っては歓声を上げていました。

そのほか、海藻押し葉づくりコーナーでは、オリジナルの作品作りを楽しむ家族も見られました。

センター外では、釣り堀や水槽で泳ぐカメの見学も人気でした。また、海上では、海洋調査船「弥生」の船内見学が行われました。

センター内で開かれた講演会では、特任研究員の森阪匡通さんが「大槌のイルカの音が聞けるか—イルカの音と社会—」と題して講演しました。



①タッチプールで魚に触れ喜ぶ子どもたち

②海洋調査船「弥生」の船内見学

③海藻押し葉づくりを楽しむ来場者



①海辺の生物探しに夢中になる児童
②カヌーを楽しむ児童



B & G財団のおためし授業で 海の生物観察やカヌー体験

B & G財団の「水に賢い子どもを育む年間型活動プログラム」おためし授業の一環で、先月21日、アトランタ五輪カヌー代表で同財団職員の持田雅誠さんを講師に、大槌小学校(小野寺美恵子校長、児童282人)の5年生45人が地域の自然を楽しみました。

海辺の生物観察では、吉里吉里漁港周辺の海辺で、磯に生息する生物を観察しました。5年生の清水春樹くんは「ヤドカリや小さい魚を見つることができて嬉しかった。とてもかわいい。海での勉強はとっても楽しい」と目を輝かせていました。

その後、B & G海洋センタープールの艇庫に移動し、カヌーを体験しました。持田さんの指導のもとカヌーに乗り込んだ児童は、その魅力に惹かれ、笑顔で楽しんでいました。